

(メッセ海外通信 2009年10→12月号掲載記事)

## ～下関市・青島市友好都市締結30周年を迎えて～

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
澤淵 史恵

下関市と青島市は、1979年10月3日に友好都市の締結を行い、本年で30周年を迎えます。10月26日には下関市で盛大に30周年記念式典が開催され、これを記念して下関市と青島市において様々な記念行事が開催されます。

両市は、両国間における地理的な優位性を活かし、友好都市の締結を行う以前より、青島から下関に漁船が来航するなど、経済的な強い結びつきがありました。また、下関市が全国に先駆けて官民一致で日中友好促進に取り組んでいたこともあり、早い段階で中国の都市との友好都市締結を行うことができました。

下関市では、本年8月に観光客誘致の一環として、中国からの修学旅行誘致を図るべく、青島市内の教育関連機関を訪問しました。中国では学校行事としての修学旅行という概念はなく、夏休みや春休みの長期休暇を利用して学生各自が語学研修等の名目で参加する研修旅行が一般的です。これを学校側の強いバックアップを得ることで、より多くの青少年に来関いただくことを目的に訪問したものです。

中国ではご承知のとおり、1979年より一人っ子政策を実施しており、親たちは子供の安全確保には非常に神経を尖らせています。学校側もそれを懸念して積極的に修学旅行を実施することができないというのが現状のようです。しかし、下関市では一般の旅行では経験することのできない学校訪問、学生間交流、日本文化体験等の場を率先して提供し、少しでも実施団体数を増やすことで、修学旅行誘致に向けて引き続き力を入れていくことにしています。



中国人観光客の市内文化体験の様子



中国学校関係者による下関市学校訪問

日本と中国との間には悲しい歴史があり、未だその溝は深く、埋まることはありません。しかし、日本に来られた中国の方のほとんどが、帰国の際に、日本人の礼儀正しさや街の様子を見て、日本観が変わったとおっしゃいます。少しでも多くの中国の方に訪日いただき、真の日本人像を肌で感じて帰国いただきたいと考えます。

特に学生時代に得たものは、将来へ通じる価値観の礎となります。この修学旅行誘致を通じて、青少年交流を率先して行うことで、日中の相互理解が進み、日中の新しい時代が来ることを祈ってやみません。

最後になりましたが、現在下関市と青島市には1980年10月に就航した日中友好の船から始まる、週2便のフェリーが運航しています。時間をお金で買うという言葉に代表されるように、現代人は少しでも時間を節約しようとしがちですが、これを機会に、ゆったりとした船の旅で下関市と青島市の長い友好交流の歴史に思いを馳せると同時に、友好都市である青島市の今をご自分の肌で感じてみては如何でしょうか？